

こころまるだより

だい 7 号 2025 年 7 月 発行



この表紙のイラストは、地域活動支援センター「ふれあいの森」の利用者が描いたものです。
「ふれあいの森」には、那須塩原市に住んでいる障害のある方々が通っています。一人ひとりの個性に合わせた作業に取り組んだり、地域行事への参加を通じて、社会との交流の機会を持つ事業を実施しています。

今回は地域で活躍しているボランティアの皆さんを紹介するよ。めくってみてね！

那須塩原市社会福祉協議会
マスコットキャラクター
こころまる

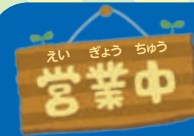


社協
ホームページ



社協
Facebook

社会福祉法人那須塩原市社会福祉協議会



わたしのまちの福祉協力店

中学生が
インタビュー!!



せきぐち歯科医院



厚崎中学校の生徒 5 名が福祉協力店「せきぐち歯科医院」の歯科医師である関口先生に取材をしました!!

質問① 福祉協力店に登録したきっかけは？

地域住民や他団体と協力してボランティア活動を行いたいと思ったことがきっかけで登録しました。

質問② せきぐち歯科ってどんなところ？

「一生自分の歯で」「歯は命の源」「できるだけ歯を抜かない治療」をモットーに、歯を通じて楽しい毎日が過ごせるようになってほしいと思いい地域の方々の歯を治しています。

質問③ せきぐち歯科での福祉的な取り組みを教えてください。

2005 年にハローアルソン・フィリピン医療を支える会を設立し、それ以来毎年 2 月にフィリピンで医療ボランティア活動を行っています。

このボランティアを始めたきっかけは、私の仲間がフィリピンで初めて治療をした 10 歳の男の子「アルソン君」の出来事があったからです。前歯に虫歯が 4 本あり、泣く泣く全て抜歯をしました。二度とこのような悲しい思いをさせたくないと強く思い、歯を守る大切な道具である「歯ブラシ集め」を呼びかけ、仲間とともにこの会を作りました。現在も歯ブラシをはじめタオルや固形せっけんなどを地域の方々や仲間から寄付を募り、物資支援を行っています。

質問④ 地域の子どもたちに向けて一言メッセージをお願いします。

日本人は環境に恵まれていて、将来の夢を語ることが出来ます。一方、世界に目を向けると 3 人に 1 人が 15 歳までしか生きることが出来ないという状況があり、「生きたい」と夢を口にする子どももいます。だからこそ、みんなには一日一日を真剣に、楽しく生きてほしいです。



左から：林さん、上田さん、関口先生、阿久津さん、岩崎さん、阿久津さん

地域共生社会振興基金寄付者一覧 (2025年7月1日現在) (敬称略)

- 石川建設株式会社
- 有限会社那須クリーン
- 那須塩原市一般廃棄物処理協同組合
- 株式会社大島自販
- 那須野農業協同組合
- 国際医療福祉大学病院
- そすいの郷ふるさとにします産直会

地域共生社会振興基金とは、地域共生社会の実現のため、那須塩原市社会福祉協議会が設置している基金です。

発行 社会福祉法人 那須塩原市社会福祉協議会

住所 〒329-2705 那須塩原市南郷屋 5 丁目 163 番地 (健康長寿センター内)
TEL 0287-37-5122 FAX 0287-36-8710
ホームページアドレス <http://ns-shakyou.jp/> Eメールアドレス info@ns-shakyou.jp
Facebook <https://www.facebook.com/nasushiobarashakyou/>

LINE
公式アカウント



地域で活躍しているボランティアの皆さん



那須おもちゃクリニック

長谷川 穰さん

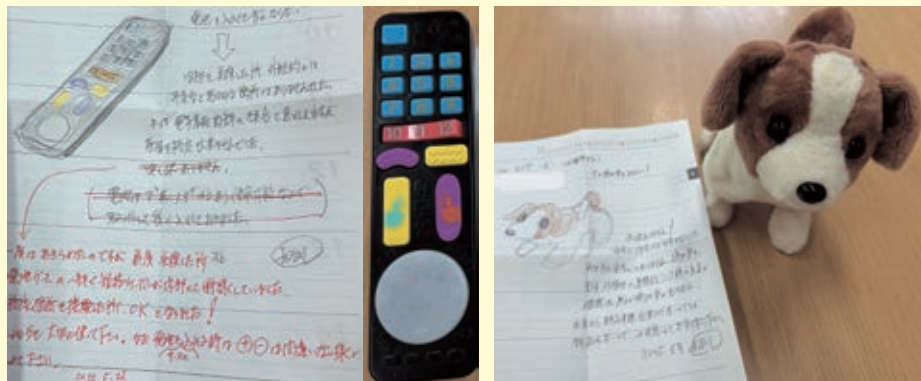


『那須おもちゃクリニック』とは、壊れてしまったおもちゃを無償で修理して使えるようにする活動をしている団体です。
※部品交換の費用がかかる場合があります。

他のメンバーと活動しています



長谷川先生が修理したおもちゃとそのカルテ



なべかけ子ども食堂
イトナベレストラン ボランティア

高久詩織さん

(黒磯南高校 1年)



たくさんの方が集まり大盛況!



『イトナベレストラン』とは、鍋掛公民館で、毎月第3日曜日に開催している子ども食堂のことです。

未就学児から大人の方まで誰でも参加が可能です!

地域のベテランお母さん達がつくられたボリューム満点で美味しいご飯をみんなで食べたり、体育館でボール遊びをしたり、色々な活動を楽しみながら過ごすところです。ボランティアも募集中です!

防災訓練をしている様子



流しそうめんをしている様子



インタビュー

Q: 那須おもちゃクリニックを始めたきっかけは?

A: 幼少期から、飛行機やラジコンに興味があり、部品を組み立てたり、ばらしたりして楽しんでいました。仕事は車の部品を作っていました。仕事を退職した後、社会の役に立ちたいと思い、壊れたおもちゃを直すことを始めました。

Q: この活動のおもしろさややりがいとは?

A: 壊れてしまったからもうダメだと諦めていたおもちゃが、元通りに直って、皆さんに喜んでもらえることが一番嬉しいです。また、この活動のことを聞いた地域の人達から「良い活動をしているね」「自分もやってみたい」と言ってもらえたりすることも、やりがいになっています。

Q: こころまるだよりを読んでいる皆さんに一言お願いします。

A: 「壊れてしまったもう遊べない」と思っても、修理をすればまだまだ使えるようになるおもちゃがたくさんあります。小さなお子さんから大人の方まで、最後まで物を大切にすることが大切です。

インタビュー

Q: ボランティア活動に興味を持ったきっかけは?

A: 友達がボランティアをしていたこともあり、小学生のころから興味がありました。小学6年生のときに、鍋掛公民館で子ども食堂「イトナベレストラン」が始まることを知り、家からも近く、母もボランティアとして関わっていたことで実際に活動してみようと思ったのがきっかけです。

Q: ボランティアをして良かった!と思うことは?

A: イトナベレストランでは、クリスマス会や餅つきなど季節ごとにイベントを行うので、その企画や司会進行など、学校では出来ない経験が出来ることです。また、小学生や地域のベテランお母さんなど、色々な世代の方と関わることが出来ることです。

Q: 学業や部活動とボランティア活動を両立することって大変?

A: イトナベレストランの日に、部活の大会や練習、テスト期間が重なると大変ですが、ここに来ると、友達や他のお母さん達と話をすることが楽しくて、ボランティアをすることが息抜きにもなっています。